



平成 30 年 8 月 21 日
独立行政法人国立科学博物館

平成 30 年度 国立科学博物館 「重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）」19 件の登録 について

独立行政法人 国立科学博物館（館長：林 良博）は、平成 20 年度から重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）の登録を実施しています（別紙）。

平成 30 年度は、あらたに、1969 年製造のセイコー クォーツアストロン 35SQ など、19 件を登録することとなりました。今回（第 11 回）の登録により合計 259 件の登録となります。

なお、今回登録される資料の所有者をお招きした登録証及び記念盾の授与式と、パネル展示（一部実物資料を展示）についても開催いたします。

つきましては、下記広報について、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 「重要科学技術史資料」 別紙一覧の 19 件
- 「重要科学技術史資料」登録証及び記念盾授与式

期 日 平成 30 年 8 月 28 日（火）
会 場 国立科学博物館 日本館 2 階 講堂
東京都台東区上野公園 7-20
次 第 14:00～ 受付
14:30 開式
国立科学博物館長挨拶
重要科学技術史資料登録委員会委員長挨拶
14:45 登録証及び記念盾授与
15:20 閉式（閉式後、集合写真撮影／パネル展示見学）

■ パネル展示（一部実物資料を展示）

期 日 8 月 28 日（火）～9 月 9 日（日）
会 場 国立科学博物館 日本館 1 階 中央ホール
(注、一部実物資料の展示は 8 月 28 日～9 月 2 日のみ。)

※登録資料のデジタル写真をご希望の方は、使用目的等お書き添えの上、下記、E-mail アドレスにご連絡ください。（10 月末までご請求いただけます。）

※8 月 28 日（火）授与式等でのご取材の場合は、お手数ですが、ご連絡をお願いいたします。



本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館
産業技術史資料情報センター 担当：久保田・亀井・高江洲
〒305-0005 つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館 筑波研究施設内 産業技術史資料情報センター
E-mail: sts2006@kahaku.go.jp
TEL: 029-853-8394(代表) FAX: 029-853-8492 http://sts.kahaku.go.jp/

重要科学技術史資料 一覧

番号	写真例	名称	所有者	製作年
第00241号		FACOM128B および関連資料 — 日本のコンピュータ黎明期を牽引したリレー式計算機 —	富士通 株式会社	1959
第00242号		ボトル自販機 V-63 — 広く日本国内に普及した飲料用自販機 —	コカ・コーラ ボトラーズ ジャパン 株式会社	1962～ 1969頃
第00243号		FinePix4700Z — 世界初のハニカム構造 CCD 搭載デジカメ —	富士フイルム 株式会社	2000
第00244号	表 裏 	ヘリカルスキャン試行実験天板 — ヘリカルスキャン方式 CT の実現に道を開いた実験器具 —	藤田保健 衛生大学	1988
第00245号		小型オープンリール・テープレコーダ RQ-303 「マイソニック」 — テープレコーダ市場を大きく拡大した1万円テレコ —	パナソニック 株式会社	1963
第00246号		アイソレートループ方式オープンリール・テープデッキ RS-1500U — ユニークなテープパス系と DD 大径キャプスタンを装備した高級テープデッキ —	パナソニック 株式会社	1976
第00247号		最高級写真顕微鏡 ニューバノックス AHBS — 世界初の AF を含む自動化を実現した画期的顕微鏡システム —	オリンパス 株式会社	1983
第00248号		CF 方式光学系研究用生物顕微鏡 バイオフォト — 世界初の CF 方式光学系による顕微鏡性能の飛躍的向上 —	株式会社 ニコン	1976

番号	写真例	名称	所有者	製作年
第00249号		油圧ショベル UH03 — 操作性と動作速度が大幅アップ —	日立建機 株式会社	1965
第00250号		磁石式手動交換機 — 日本における最古の交換機形式を残した磁石式電話交換機 —	日本電信電話 株式会社 情報ネットワーク 総合研究所	1961
第00251号		カーボンロール CARBOLEADER — 世界最長クラスのカーボンクラッドメッキロール —	三菱ケミカル 株式会社、 サンレイ工機 株式会社	2012
第00252号		クーリッジX線管U型 — 独自の工夫で取扱いを改善した初期のX線管 —	国立大学法人 九州大学	1925頃
第00253号		医療用X線装置「ダイアナ号」および関連装置 — 最初期の医療用X線装置 —	株式会社 島津製作所	1920～ 1923
第00254号		日立 705 形自動分析装置 — 臨床検査に適した小型化、高効率化を実現した自動分析装置 —	株式会社 日立ハイテク ノロジーズ	1983
第00255号		世界初の病院検査室用自動検体搬送「ベルトラインシステム」 — 病院検査部職員自らの手で世界に先駆け開発 —	国立大学法人 高知大学 医学部附属病院	1984
第00256号		壁掛セパレート型エアコン MS-22SA — 現場の技術開発で薄型化を実現 —	三菱電機 株式会社	1968
第00257号		ロータリーコンプレッサ B型シリーズ — 国内最初期のエアコン用ロータリーコンプレッサ —	東芝キャリア 株式会社	1969

番号	写真例	名称	所有者	製作年
第00258号		セイコー クォーツアストロン 35SQ — 世界初のクォーツ式腕時計 —	セイコーエプソン 株式会社	1969
第00259号		世界初多局受信型アナログ電波修正時計「シチズン電波時計 (Cal.7400)」 — 世界で初めて多局受信機能を搭載した電波腕時計 —	シチズン時計 株式会社	1993



1. 重要科学技術史資料（未来技術遺産[※]）の登録制度とは

国立科学博物館では、「科学技術の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つ科学技術史資料」及び「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えた科学技術史資料」の保存と活用を図るために、関係する工業会及び学協会と協力して、調査研究活動を従来から行ってまいりました。これらの資料は、近年の科学技術の急速な発展、技術革新や産業構造の変化の中でその本来の意義が見失われ、急速に失われようとしています。国立科学博物館では、このような資料の保存を図るとともに、科学技術を担ってきた先人たちの経験を次世代に継承していくことを目的として、重要科学技術史資料の登録制度を平成20年度より実施しており、これまでに240件の資料を登録し、今回新たに19件の資料を登録いたします。（合計259件）

※未来技術遺産（愛称）：過去の科学技術史資料のうち未来へ引き継ぐべき遺産として名づけた愛称。

2. 登録制度の内容

- 台帳への登録及び登録証等の交付：国立科学博物館の『重要科学技術史資料登録台帳』に登録するとともに、所有者に国立科学博物館から重要科学技術史資料として登録されたことを示す登録証及び記念盾（別紙1参照）を交付します。
- 現状変更等の連絡：所有者から登録資料の移動・破損等の状況等について連絡を受け、資料の状況についてできる限り記録します。また、国立科学博物館から定期的に現状の確認を行うことなどによって、できるだけ多くの資料の散逸を防ぎます。
- 情報の公開：登録台帳を作成するとともに、国立科学博物館ホームページ上において、重要科学技術史資料に関する情報の公開を行います。（個人情報報告は除く。）
- パネル展示の実施：重要科学技術史資料を紹介するパネル展示を行います。

3. 登録制度の特徴

国立科学博物館が行う重要科学技術史資料登録制度は、日本の全科学技術を対象とし、資料の保存とその活用を図ることを目的としています。

また、この活動は、国立科学博物館で平成9年以来行ってきた産業技術史資料の所在調査や、経常的に行われている科学技術史・産業技術史研究の成果を基盤として行われています。

さらに、重要科学技術史資料に登録されると、資料の保管場所等が変更されるつど、所有者は国立科学博物館にご連絡いただく一方、国立科学博物館では定期的に資料の状況を確認するなどのアフターケアを行います。

【参考】

1. 登録までの流れ（別紙2及び3参照）

今回の重要科学技術史資料の登録は、国立科学博物館で行っている産業技術史資料の「所在調査」によって得られた情報（平成30年7月現在、223の技術分野、14,697件）の中から、具体的に光学顕微鏡技術・X線管装置技術・臨床検査技術・エアコン技術・時計技術といった個別の技術分野を選定して、技術の歴史的な経緯を整理する「系統化」研究（平成29年度末現在、105の技術分野）を行ったうえで、登録候補を選出しました。その後、外部有識者によって構成される重要科学技術史資料登録委員会（委員長：寺西大三郎）における審議結果を踏まえて、最終決定に至りました。

2. 登録制度の今後について

国立科学博物館では、今後も引き続いて、個別の技術分野を対象に技術の系統化調査を行い、継続して重要科学技術史資料の登録を行います。また、すでに登録された重要科学技術史資料については、資料の状況を定期的に確認いたします。

こうした活動を通じて、未来に残すべき科学技術史資料の保存をはかるとともに、広く一般に対して科学技術史資料についての理解を促進していきます。

3. 国立科学博物館 産業技術史資料情報センターとは

産業技術史資料情報センターは、技術分野ごとに関連する工業会と協力して、「産業技術史資料の所在調査」を行っています。また、産業技術と社会・経済・文化とのかかわりを研究する「技術の系統化研究」などの調査研究を行っています。

さらに産業技術史資料情報センターでは、重要科学技術史資料の登録制度を運営し、『重要科学技術史資料台帳』を作成するとともに、継続して登録された重要科学技術史資料のアフターケアを行います。

その他にも、産業技術系博物館と連携した活動や、産業技術史をテーマにした展示や学習支援活動を行っています。



重要科学技術史資料登録証



表

見本(裏)

所有者の氏名または名称	株式会社 東芝 執行役員 電力流通・産業システム社長 北村秀夫
所有者の住所	東京都港区芝浦一丁目1番1号
資料の所在地	神奈川県横浜市鶴見区江戸崎町4番1号 東京電力株式会社 電気の史料館
受付または再交付の年月日	平成20年10月9日

変更等年月日	変更等内容

備考

- 次の場合には、この登録証を挿入して届けてください。
- 1 所有者が変わったとき。
 - 2 所有者の氏名もしくは名称又は住所を変更したとき。
 - 3 資料に破損・滅失、変更などがあつた場合。

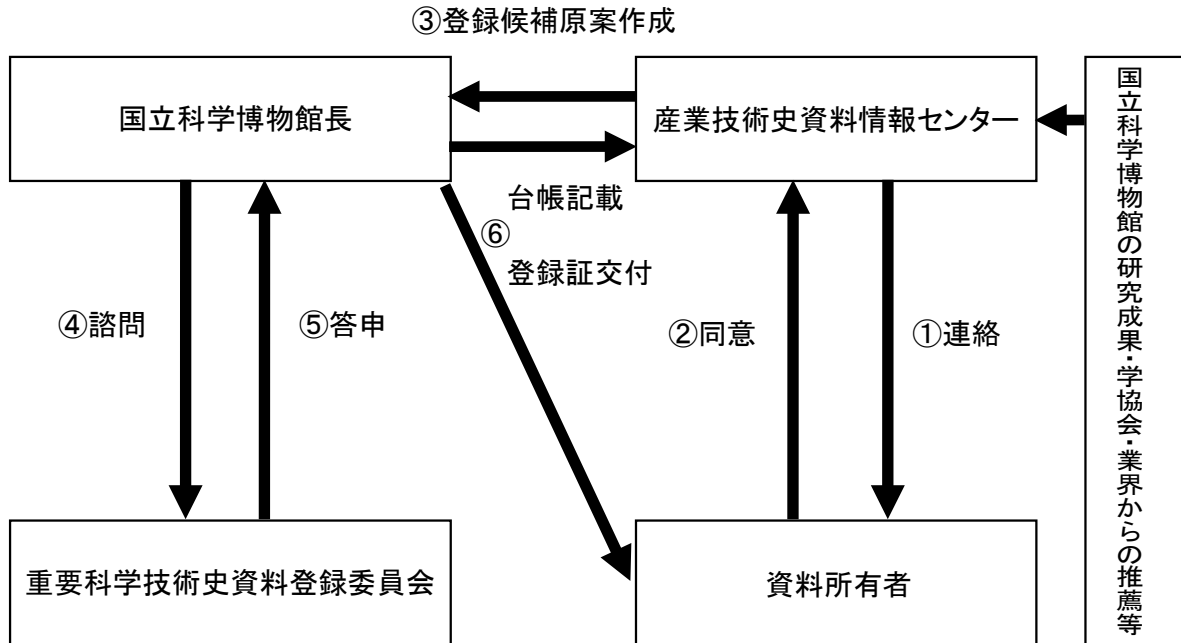
裏

記念盾





登録までの流れ



重要科学技術史資料登録委員会委員

大島まり	東京大学大学院情報学環／東京大学生産技術研究所	教授
小川明	一般社団法人 共同通信社	客員論説委員
鈴木基之	東京大学	名誉教授
田辺義一	独立行政法人国立科学博物館	名誉研究員
柘植綾夫	公益財団法人 科学技術国際交流センター	顧問
○寺西大三郎	一般財団法人 化学研究評価機構	顧問
中山俊介	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所 文化遺産国際協力	センター長
成田年秀	トヨタ産業技術記念館	副館長

○：委員長

平成 30 年 5 月現在



平成 20 年 2 月 8 日
館長裁定

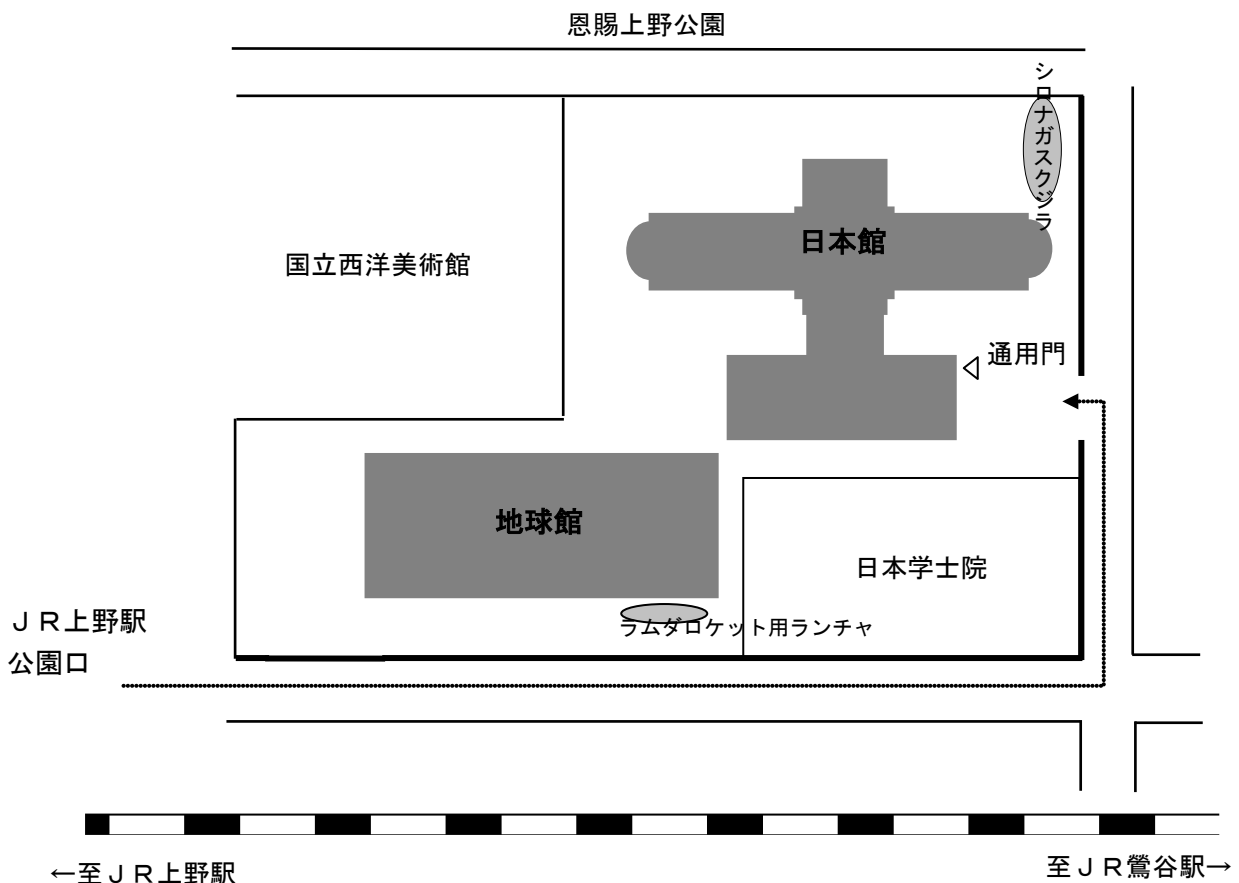
○重要科学技術史資料の選定基準

- 一 科学技術（産業技術を含む。以下同じ。）の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つもので、次の基準を満たすもの
 - イ 科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの
 - ロ 国際的に見て日本の科学技術発展の独自性を示すもの
 - ハ 新たな科学技術分野の創造に寄与したもの
 - ニ 地域等の発展の観点から見て記念となるもの
 - ホ 試行錯誤、失敗の事例など科学技術の継承を図る上で重要な教育的価値を有すもの

- 二 国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えたもので、次の基準を満たすもの
 - イ 国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの
 - ロ 日本経済の発展と国際的地位の向上に一時代を画するような顕著な貢献のあったもの
 - ハ 社会、文化と科学技術の関わりにおいて重要な事象を示すもの

「重要科学技術史資料」登録証及び記念盾授与式 案内

- 期 日 平成 30 年 8 月 28 日 (火)
- 会 場 国立科学博物館 日本館 2 階 講堂
【東京都台東区上野公園 7-20】
- 当日電話 03-3822-0111 (大代表)
- 次 第 14:00～ 受付
14:30 開式
15:20 閉式



【国立科学博物館までのアクセス】

- JR「上野」駅公園口から徒歩5分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線「上野」駅から徒歩10分
- 京成線「京成上野」駅から徒歩10分
- ※駐車場の用意はございません。

E-mail/FAX 返信票

8月28日（火）授与式取材

の場合は事前にご連絡いただきますようお願いいたします。

独立行政法人国立科学博物館産業技術史資料情報センター 行

※E-mailの場合は、本文中に返信項目をご記入の上、タイトルを「取材・登録証授与式」としてお送りください。

※お手数ですが8月24日（金）までにご返信ください。

E-mail: sts2006@kahaku.go.jp

FAX : 029-853-8492

〔授与式取材者〕

貴社名 _____

ご芳名 _____ (計 人)

Email _____

TEL _____

FAX _____

※今後、当センターのご案内をメール等で差し上げてもよろしいでしょうか？

はい いいえ